

自給飼料の質・量を向上、購入飼料を減らし経営安定を図る

農林水産省経営局長賞【全国青年農業者会議・プロジェクト発表】

しべちゃ
大宮牧場・ベーコンエッグ株式会社(標茶町)



大宮牧場の牛舎、砂ベッドで管理



草地更新や追播などで植生改善

【組織等の概要】

- 会社名: 大宮牧場、ベーコンエッグ株式会社
- 所在地: 北海道川上郡標茶町虹別442番地
- 代表取締役: 大宮 睦美
- 経営形態: 夫妻で経営(雇用無し)
- 飼養頭数: 85頭(乳用牛)
- 生乳出荷量: 500トン/年
- 飼料作物面積: 87ha
(牧草25ha、飼料用トウモロコシ62ha)



◇【取組の経緯と概要】

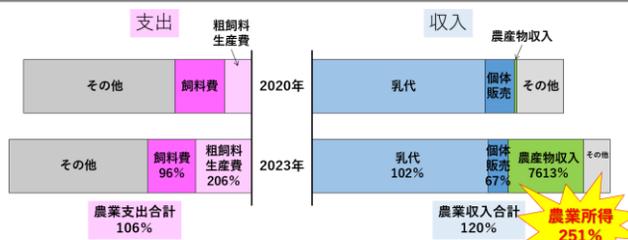
- ◆ 2015年に妻と2人で標茶町の農業生産法人で研修生として、「草地型酪農の基盤確立と自給飼料を中心とした低コスト経営の実践と実現」というコンセプトのもと自給飼料生産の基本を学んだ。
- ◆ 2017年4月から第三者経営継承による新規参入により標茶町で酪農を始める。
- ◆ 経営目標として、社会情勢の変化や気候変動等による飼料高騰や資金不足リスクを小さくし経営体力をつけるため、自給飼料の割合(量・質)を向上させて購入飼料の割合(量、費用)を減らす取り組みをしている。
- ◆ 草地更新や追播などで植生改善をしており、高栄養で嗜好性が良い牧草サイレージにするため多回刈りを行い、乾物重量の確保とでんぷん含有量の高い牧草が収穫できるように熟期を意識している。
- ◆ これまで飼料用トウモロコシの余剰分を販売し、収入の増加につなげたことから、今後も継続した販売体制の確立と安定収入を得るためベーコンエッグ株式会社(飼料会社)を設立した。
- ◆ 気候変動リスク等に対処するために収入保険に加入した。

【取組の成果】

- 飼料用トウモロコシの作付面積を増やし、購入飼料を減らすことで、飼料価格高騰に係るリスクを減らした。また、収量は自家消費分を大きく超え、余剰分を販売することで新たな農産物収入を得ることができたため、農業収入が20%増加した。更に飼料販売体制の強化と経営の安定化に資するため、飼料会社として「ベーコンエッグ株式会社」を設立した。
- 牧草は、追播や草地更新で植生改善に取り組み、収量が増加し栄養価も上昇した。4回刈りにより1回の収量は減るものの合計収量は増加し、高タンパク質で、嗜好性(食い込み)が良い牧草サイレージの確保ができるようになった。

経営状態の推移

※2020年を100%とする



【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 各種資材の高騰や作付面積拡大により粗飼料生産に係る費用の増加が懸念された。
⇒ 価格高騰などにより支出が増加したが、飼料購入量を少なくし、飼料自給率を高め、飼料余剰分を販売できたことにより、農産物の収入が増加した。

農林水産省経営局長賞
第62回全国青年農業者会議
「畜産経営部門」



トウモロコシ畑



4番草刈り取り前

【今後の展望】

- 飼料用トウモロコシの作付面積を更に拡大する。
- 限られた圃場で生産量を確保し、既存の技術ばかりでなく新技術を導入するよう意識し農場運営をする。
- 乳牛の健康状態や無理のない生産を優先してアニマルウェルフェアの面からも最適な飼養管理体系を選択していく。